

令和2年度 呉市病院事業改革プラン評価委員会の評価・助言

開催日：令和3年3月10日

場 所：呉市役所本庁舎

評価・助言	対応（進捗）状況
1 事業規模・形態	
<p>(1) 病院はとびしま4島にとって最後の砦で、大変重要である。この病院がなくなったら大変なことになるという危機感を住民は皆持っている。</p> <p>(2) この病院は島しょ部で中核的な病院であり、ずっと存続してほしいという住民の思いもあるので、その意見を十分反映してほしい。</p>	<p>ア 安芸灘島しょ部で、公立下蒲刈病院が中心となって地域医療を支えていかないと認識しており、市としても将来的に病院を残していけるよう働きかけて参ります。</p> <p>いつまでも赤字経営でなく、医師を確保できれば、健全な経営ができるものと考えております。</p>
2 医師確保対策	
<p>(1) 医師の確保は可能なのか。</p>	<p>ア 各方面にお願いをしており、若い医師だけでなく、専門医の資格取得後や大きな病院で勤務した後の医師にも来ていただけるよう努力を続けております。</p>
3 経費削減・抑制対策	
<p>(1) 過去の改革プランの評価資料を見ると未収金対策が行われていない印象である。</p> <p>(2) 一番負担が大きいのが給与費である。</p>	<p>ア 患者負担分の未収金で年度を越えて入っていないのは30万円程度ですが、未収金対策は重要と考えており、支払が難しい方は分割納入等の便宜を図っています。未収金はその都度督促して支払っていただけるようにしています。</p> <p>イ 職員構成上年齢が高い職員が多いことと、地方公営企業法の一部適用の公営企業であるため、給与が条例上決まったものしか出せないことが要因です。しかし、時間外手当の削減は、職員に周知し、無理のない範囲で減らす努力をしています。</p>
4 公立下蒲刈病院の在り方	
<p>(1) 呉市の財政負担もあるため、中長期的な展望で今後の病院の地域での在り方を見据えて取り組んでいくべき。</p> <p>(2) 病院間連携を活用する中で、公立下蒲刈病院で診療するのはどういう患者か、他の病院に紹介するのはどういう患者か、また、公立下蒲刈病院としてターゲットとするのはどういう患者かを今一度見直し、地域、住民、医療従事者、行政とその内容について話し合い、公立下蒲刈病院の地域における使命や役割、立ち位置について、認識を共有すべき。使命等が定まって初めて、そのために必要な人員や経費、収益といった指標も定まり、地域の住民や医療従事者等の関係者も協力体制をとろうということになるのではないか。</p>	<p>ア 国の新公立病院改革ガイドラインの改定等を含む再整理や地域医療構想を踏まえ、次期改革プランにおいて検討したいと思っております。</p> <p>イ 地域の医療機関等や消防局とは会議を持っていますが、住民との意思疎通の方法について、検討して参ります。</p>
5 その他	
<p>(1) 派遣医師の診察日が週一回で交代だと、患者が外来に定着しない。何かあったらすぐ相談できる関係がある医師が全身状態を診ると、患者が定着するだろう。</p> <p>(2) 特定健診の受診率が低いので、掘り起こしていかないといけないと思う。</p>	<p>ア 常勤医師の確保に努めて参ります。</p> <p>※ 令和3年4月1日より、常勤医師1名を採用します。</p> <p>イ 病気の早期発見、早期治療の視点からも特定健診やがん検診は重要と考えています。特定健診の受診率を向上させるため、節目年齢の方への人間ドック助成や特定健診受診者の脳MRI検査費用軽減、受診勧奨ハガキを特定健診とがん検診を広報する内容で数種類作成し、対象者に合った内容となるよう工夫を重ねていきます。</p>
6 委員会まとめ	
<p>(1) 今後も安芸灘島しょ部の中核的な病院として地域医療を守るべき。</p> <p>(2) 病院・住民・地域の診療所・行政等で話し合いの場を設け、病院の役割を明確化すべき。</p> <p>(3) 引き続き経営改善に取り組むべき。</p>	